



大山晃 議員

### ●みんなが住みたくなくなる町とは

を育てられるのか、そのための人づくりや教育にあると思います。また、何と言っても町政を維持するためには財源、お金が必要となりますから、そうした意味で産業の振興、地域の振興がその次に大事であると考えます。以上が、私が基本的に考える町づくりであります。

### 何をもちて「住みたい町」と考えるか

**問** 現在、少子高齢化社会の中で、上毛町の発展を願って様々な事業を進めてきたと考えるが、今後高速道路の開通や東高跡地の住宅建設など進めているわけだが、町長は何をもちて住みたい町を掲げてきたのかお聞きしたい。

**答** 新規定住者に対する税の優遇措置は考えているか。

**町長**

町民が住んで本当に幸せと思えるような、外から来られた方が本当にいい町だと思えるような町をつくるのが基本であると思います。具体的には第1に住環境の整備が最大であろうと思います。それから第2に教育、子どもを育てる環境がいいのか悪いのか、本当に安心して子ども

**町長**

現在行っている減免や軽減の措置については条例で定めたとおりですが、新たに定住された方に対して、土地の購入、住宅の新築、建て売りや中古の住宅購入などに対して、現在行っている税の軽減措置とは別に、固定資産税の一部を奨励金という形で一定期間交付するというものを検討しているところですが、

**問** 子育てや教育環境の一つとなる現在の保育所の入所状況はどうか。

**答** 住民課長

入所状況ですが、新吉富保育所110名、大平保育所118名、ポツポ保育園125名で、定員数に対して120%です。

**問** 学童保育の定員と実状はどうか。

**答** 総合窓口課長

国のガイドラインによると1箇所の規模は、40人程度が望ましいということになっております。現在町内には3カ所の学童保育があり、11月末で、南吉29名、西吉12名、大平

25名です。



着々と建設が進む友枝保育所跡地



宮崎 昌宗 議員

### イルミネーション補助事業は

**問** 節電が求められる、電力のあり方が争点になっている今、町が補助金(40万円)まで出してイルミネーションを推進する必要があるのか。

**答** 企画情報課長

明かりがあることで、農村の暗い闇のイメージが明るいイメージに変わり、町のPRにもなります。明かりを照らすことで地域に連帯感を生み、地域全体の防犯意識の向上にもつながるものと考えています。

### 東高跡地宅地化の状況は

**問** 宅地分譲を行う運営会議とは。

**答** 企画情報課長

住宅生産振興財団の4社と中津・福岡県内の6社が参加希望を出しています。

**問** 運営会議の手数料のハイドルが高いと地元の事業者が入れないのでは。

**答** 企画情報課長

財団にお願いすることは手数料が発生します。同じ条件のもと建物を建てていただいで、住みよい町になるための方式をとっています。

### 大池公園周辺施設の指定管理は

**問** 本年度の指定管理検証委員会の検証結果は。

**答** 企画情報課長

本年度は開催していません。

**問** なぜ開催しないのか。いつ開催するのか。

**答** 企画情報課長

時間的に開催できません。今年度は公募をかけていますので、選定委員会の中で調べている部分があります。

**問** 小さな町では行政がリーダーシップをもって頑張ったほうが、うまくいくのでは。住民の力で盛り上げるような形で運営できるのではないのか。

**答** 町長

第三セクターの運営でなくなった今、民間移譲、民間委託という方法をとる以外直接運営はできません。答申への結論は、公正公平、住民の負託にこたえる手法を考えています。

**町長**  
必ずしも必要でないと思



**答** 総務課長

毎年度、予算の範囲で継続的に設置しています。県道以外の町道などを優先的に設置します。指摘の県道部分については県に要望します。

- イルミネーション補助事業は
- 東高跡地の宅地化は
- 大池公園周辺施設の指定管理は

